

【論文提出者】 社会文化科学研究科 文化学専攻 日本・東アジア文化学領域  
氏名 石 亮亮

【論文題目】 清代章回小説<<醒世姻縁傳>>における逆序語に関する研究

【授与する学位の種類】 博士（文学）

### 【論文審査の結果の要旨】

石亮亮氏が提出した論文「清代章回小説<<醒世姻縁傳>>における逆序語に関する研究」（25 万字）は、極めて正確な考証が行われていて、優れた研究業績であり、当審査委員会は、本研究科に提出する学位論文として博士学位にふさわしい水準であると判断し、合格と判定する。

#### ① 本論文の位置付け

本論文は、近世中国語の中の清代初期の白話資料<<醒世姻縁傳>>における逆序語を研究対象としている。取り扱った逆序語とは、A B型の語順に対するB A型語順のものである。単音節語Aと単音節語Bとが複合した結果、二音節複合語A B型になるが、この逆序語B A型は表す意味が一般に同一のものであるとする。例えば“喜歡”“歡喜”や“半夜”“夜半”などである。今日に至るまでの先行する<<醒世姻縁傳>>の逆序語関連の研究は、張文文(2013)があるのみで、それも90組を単に羅列しているだけで分析などは全くなされていない。石亮亮氏は166組を上げ分析している。別に、B A型のみが<<醒世姻縁傳>>に存在し、A B型が<<現代漢語詞典>>に見えるのを36語上げている。これまで、<<醒世姻縁傳>>の逆序語を網羅的に検証された事はなく、学界に大きな影響を与えらると思われる。

#### ② 本論文の示す新知見、独創性

この点については、以下の3つに集約できる。

1) 本論文は、<<醒世姻縁傳>>の逆序語が166組存在していることを初めて示した。約400年前の、当時の言語を反映する影印本を用いて一つ一つ丁寧に検証していることが窺える。

2) 逆序語の系譜を明らかにしようと試みた。張文文(2013)が逆序語90組を単に羅列しただけであるのに対し、石亮亮氏は166組(+36語)を次の4種類に分けてその消長を見ようとした。

(a) A B型/B A型のどちらかが現代共通語に継承されているもの。

(b) 双方とも現代共通語に継承されているもの。

(c) 現代共通語に継承されていないが、現代方言に残存されているもの。

(d) 現代共通語及び方言にも継承されていないもの。

3) 品詞分類を行い整理した点。166組の内訳は、動詞79組、名詞53組、副詞17組、形容詞15組、代詞と接続詞各1組になる。逆序語になると片方の語義が異なるケースが34組存在する点にも言及する。

この他に、166組の中から代表的な逆序語10組を選出し、特に詳細な分析を加えている。この10組に対する分析（質と量）は、1組につき論文1編に相当するとみられる。

#### ③ 本論文の評価等

本論文の学会での評価は、以下の通りである。

博士後期課程3年半で、3回の日本国内全国大会、7回の地方大会で口頭発表し、高い評価を得てきた。また、地方誌（『紀要』の類に相当）ではあるが単著7本採録されている。また、雑誌掲載は、上記②③の後に示したように事例研究として代表的な逆序語10組を順次発表していて、高い評価を得ている。

### 【最終試験の結果の要旨】

石亮亮氏が提出した論文「清代章回小説<<醒世姻縁傳>>における逆序語に関する研究」(25 万字)について、平成 30 年 6 月 14 日(木) 14:40 より 16:40 まで、文法棟・小会議室にて審査委員全員(4 名)出席のもと審査委員会を実施し、修正論文に基づく最終試験を行った。

本人より学位請求論文の主旨(研究目的、方法、成果)について説明された後、各審査委員との間で質疑応答があった。逆序語語彙について、<<醒世姻縁傳>>を中心に考察、分析し、新知見を出したもので、どの質疑に対しても専門的学識に基づいた応答が適切になされた。

この結果、申請された学位論文が博士学位授与に十分値する労作であると確認され、審査委員会は、全会一致で最終試験を合格と判断した。

### 【審査委員会】

主査	植田	均
委員	朴	美子
委員	岩田	奇志
委員	渡辺	直土